

■ 目標値未達成の要因について

〔1〕

30年度の 成果測定指標	単位	30年度の目標値	30年度の実績値
近つ飛鳥博物館入館者数	人	98,400	96,011

未達成の要因と分析	3月30・31日に実施した「さくらまつり」は、天候不良のため、昨年度のさくらまつり期間中の入館者が2,000人以上減少したことが影響した。また、例年、2月に開催している「うめまつり」に合わせて実施している安藤忠雄氏の講演会が先方の都合により、急遽、開催中止になったことが影響した。
今後の改善方策	綿密な事前調整を行い、予備日を設けるなど、円滑に事業を実施するよう心掛ける。

〔2〕

30年度の 成果測定指標	単位	30年度の目標値	30年度の実績値
日本民家集落博物館入館者数	人	37,800	33,427

未達成の要因と分析	大阪北部地震や台風21号など、災害や悪天候の影響で来館者数が減少した。また、民家の土壁補修や耐震補強などの災害復旧工事のため、貸し部屋としての活用ができなかったことが入館者数の減少にも起因している。
今後の改善方策	復旧工事が完了したことをマスコミを活用するなどして広くPRし、貸し部屋のより一層の利用促進に加えて、日常の来館者層の母数増加を目指す。

■ 目標値未達成の要因について

〔1〕

30年度の 成果測定指標	単位	30年度の目標値	30年度の実績値
館外事業の参加者数	人	53,500	29,300

未達成の要因と分析	大阪府立狭山池博物館で行う予定であった、 20,000 人の参加を見込んでいた連携展示が開催できなかったことに加えて、弥生文化博物館の連携展示を実施している泉大津市立池上曾根学習館が台風の影響で長らく休館し、 10,000 人減少したことが影響した。これを補うために近つ飛鳥博物館では滋賀県立安土城考古博物館との連携展示を行い、 4,000 人の参加増となったが、目標には達しなかった。
------------------	--

今後の改善方策	府内のみならず、他地域の博物館との連携を模索し、企画段階からの協議を進め、計画的な連携事業により、全国的な知名度アップにもつなげる。
----------------	--

〔2〕

30年度の 成果測定指標	単位	30年度の目標値	30年度の実績値
利用者一人あたり経費	円	1,190	1,377

未達成の要因と分析	災害等の影響による民家集落博物館の入館者減ならびに館外利用者数の大幅減が一人あたりの経費を押し上げている。
------------------	---

今後の改善方策	各博物館の個性を活かした形でターゲットを定めて広報を行う。百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録への動きに呼応して広報・事業を展開し、入館者数の増加を目指す。 また、より積極的な連携展示などを計画的に実施する。
----------------	---

■ 目標値未達成の要因について

〔1〕

30年度の 成果測定指標	単位	30年度の目標値	30年度の実績値
当期経常増減額	千円	0	▲14,651

未達成の要因と分析	埋蔵文化財調査事業が減少するなか、市町ならびに民間事業の確保と他府県出向で対応したが、いくつかの事業の着手延期や着手遅延が生じたことから、人員に見合った十分な事業量を確保できなかったことが影響した。
今後の改善方策	大阪府内の公共事業が減少するなか、府内の市町村事業や民間開発事業に伴う埋蔵文化財調査事業受託に努めるほか、出向先の近隣他府県からの遺物整理作業の受託により事業量を確保する。

〔2〕

30年度の 成果測定指標	単位	30年度の目標値	30年度の実績値
賛助金・寄附金	円	1,900,000	1,610,289

未達成の要因と分析	企業のメセナに対する意欲の低下がみられ、賛助会員の撤退や賛助金の減額傾向が続いている。
今後の改善方策	企業の賛助金に依存する状況を脱却し、マスコミ等のメディアも活用して個人寄付制度の認知度アップを図り、少額でも母数を広げることにより、より多くの方々から支援を得られる方策を進める。